

＝ 折尾駅の保存は、子どもたちの育成、商業の発展になります ＝

世界遺産の暫定リストに登録された「官営八幡製鐵所」に、筑豊の石炭を運んだ「堀川運河」の水運から陸運（鉄道）に移行する歴史が見られるのは、唯一折尾のみです。また、製鐵に多くの人を運んだ、西鉄電車の赤煉瓦アーチ高架橋も現存しています。

- ①「堀川運河：人工の川で、曲川と『川と川の立体交差』（近代化産業遺産）
- ②「折尾駅」：鹿児島本線と筑豊本線の『日本最古の立体交差』（有形文化財級）
- ③西鉄電車高架橋：「道路」と交差。『ねじりまんぼ（赤煉瓦トンネル）』は日本最大級で、現在、作れる人は皆無。（有形文化財級）

＜折尾の誇り・遠賀の都＞

このような3つの『立体交差』をしてまでも、折尾を交通の拠点とし、私学を設立して学園都市とし、官公庁や商店を集積させ、「遠賀の都」として繁栄させました。

これらは、折尾の誇りであり、近江商人のように後世に承継することが、今の私たちの責務だと思います。

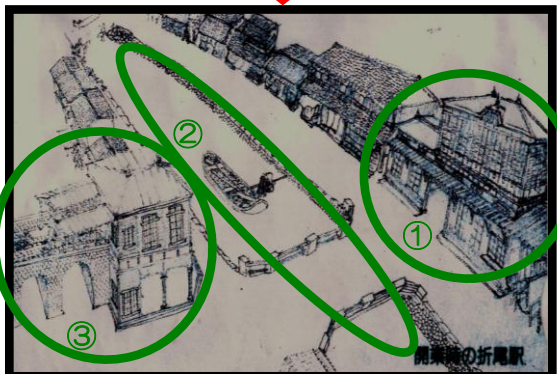
＜学術的な観光地・折尾レトロ＞

感性豊かな若者たちが、日本近代化産業の礎となった、「折尾駅周辺の歴史遺産群」の本物にふれ、折尾の歴史遺産群先人たちの知恵や想いを知ることが、将来に役立ちます。

- ◇折尾周辺の約100校の小学校 4年生は、『堀川運河』を学び、折尾駅を最寄駅とする大学9校・高校5校が、歴史遺産の折尾駅周辺を、毎日利用します。
- ◇「スペースワールド」に、福岡県内外から修学旅行に来られ、黒崎バイパスの開通で、十数分で折尾に来られます。（21年度入場者数156万人、3割～4割が修学旅行など）
- ◇折尾駅は、九州で5番目の乗降客を誇り、折尾駅そのものが観光地になります。感動するような「折尾レトロ」の街をつくることは、通過客も集客できます。
- ◇折尾駅舎を移動して仮改札口にすることは、開発中で衰退した折尾の街に、人を呼ぶことができます。

住む人に誇りを！ 来る人に感動を！ 歴史遺産を活かした街づくり

100年を超える
折尾の歴史遺産は
日本の貴重な財産です！



折尾の「先人の知恵や想い」を
将来を担う若者に、伝承しよう！

＜折尾レトロを創るための要望＞

- ① 折尾駅舎：有形文化財級の価値
＜仮改札口として活用＞
- ② 堀川運河：近代化産業遺産
＜五平太船のオブジェを設置＞
- ③ 赤煉瓦アーチ高架橋：有形文化財級の価値
※高架橋解体の跡地は、「市民トイレ」
＜トイレのデザインは、「赤煉瓦高架橋」や「西鉄電車折尾電停」の形で建設＞
- ④ 折尾の文化歴史の紹介
＜案内看板やマップなどでの広報＞